

- (1) 向くこと。また、向いている方向。
- 「南一の家」「座席の―を変えぬ」
- (2) ある意志や考えをもっている人。また、その意志や考えの内容。
- 「御用の―は受付まで」「反対の―もめるが」
- (3) 行為・行動などの傾向。
- 「理想主義に走る―がある」
- (4) その方面に適していること。また、適している方面。
- 「初心者―の辞書」
- (5) ちよっとしたこと本気になること。ささいなことにも本気で腹を立てること。
- 「むづ―に人に反対する事が、虞美人草（漱石）」
- ―になる
- 「ちよっとしたこと」に（本気で腹を立てる。
- * 本文の場合は、(4)。現代なら、「シエンターフリー」の立場から、バスシンプを浴びるかもしれない。時代性をちゃんとおさえておきたい。

19 考えに考えた末に 川の 川が
 「父が（―）かいたのが」――巴御前です。

すえ【末】

- (1) 物のほし。先端。⇨本末「竹やおの―」
 - (2) ぎょうだいのうち、「一番の子。」「―の子」
 - (3) 子孫。後裔「じいさい。」「藤原氏の―」
 - (4) 時間の最後。「年の―」「月―」
 - (5) 未来。将来。ゆゑ「すえ。ゆゑくすえ。」「―が案じられる」「―の約束をしたからついで、果して其通りに遂げられるか当世書生氣質（道徳）」「
 - (6) 道徳観念のすたれた時代。「世も―だ」
 - (7) 主要でないこと。大した問題ではないこと。「―の問題」
 - (8) 短歌の下の句。
- * 本文では、(4)。かなり長い間考えたことがわかる。

くすの（が） 動名詞（既出）

T そうだね。お父さんは、武者絵をかくのが得意で、お母はんも気持ちがよくなるくらいだったんだ。

C 「ものだ」というのは、最初の方までできたよ。

C ぶつ、そうだったということ

C お父さんにとっては、武者絵をかくのが普通だった。

C 絵といえば、武者絵だったんです。

T そうだね。お父さんは、武者絵しかかかなかった。それがあたりまえだったんだね。（*もしかししたら、「ものだ」は強調をあらわすのかもしれない）だって、わたしの田舎ではぶつだったかどうかって。

C 男の子が生まれると、風をあげた。

C 男の用の風ばかりかいていた

T 女の子が生まれても、

C 風はあげなかった。

C つまり、お父さんは、女の子のための風は作ったことがない。

C だから、知らないんだ。

T そういうことだね。川が、今のお父さんはぶつだつて、自分の初めての子が女の子だった

T 普通なら、

C 風をあげない

T でも？

C 自分の子はかわいいから、風をあげてやりたかったんじゃない。

C 生まれてくるまで、そんなことばかり考えていたんだから、たごあげをあきらめきれない。

T そうだね。そういう気持ちのお父さんだ。

C そうで、次の文。

C 考えに考えた末にかいたのが、この巴御前です。

T お父さんは、かいたんだ。普通は、女の子にはかかないけど、

C 自分の子のためにかいた。

T 考えに考えた末にっていうのは、ぶつだつたことだつて、

C ものすくすくつてくつてくつてかいた。

T 時間は？

C 長い間考えたと思う。

T そうなんだ。考えて考えて、すつてすつて、もしかししたら、何日も考えて、何をかくか決めただよ。それが

C この巴御前。

T またまた、「川」がでました。

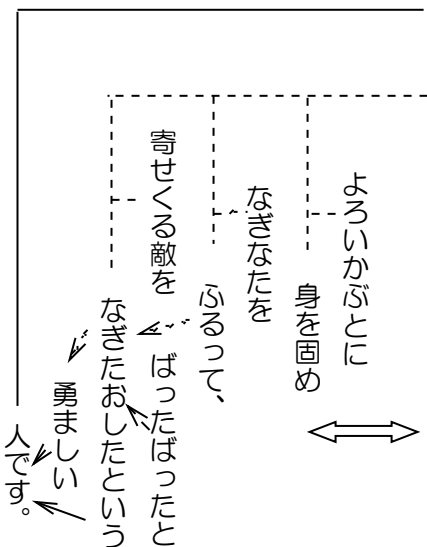
C 今、目の前にある風の川。

T そう、風を目の前にして、もしかしたら、風を持って思い出話してただよね。

C 巴御前ってわかる？

C 知らない。

T それが、次に書いてあるね。



ながら【▼乍ら】

(接助)

(1) 動詞および動詞型活用 of 助動詞の連用形に付いて、その動作・作用と下にくる語の動作・作用とが並行して行われることを表す。
 「楽しく語り合い、並木道を歩いて行った」「ラジオを聞き、仕事をやる」

(2) 体言・動詞、および動詞型活用 of 助動詞の連用形、形容詞の連体形 (古くは形容詞語幹) などにつけて、上の事柄と下の事柄とが矛盾する関係にある意を表す。…(こも)かわらぬ。…ではあるが。…つるぬい。
 「悪口を言われ、少しも怒らぬ」「若く一気がきくつるぬい」

(3) 体言・副詞、動詞の連用形などにつけて、ある状態のままである意を表す。…のまま。…のとおろ。
 「立ち一握り飯をほおぼる」「つしもの事だ」

(4) 体言・副詞などにつけて、「全部」「ちっかす」「そむいじ」などの意を表す。
 「こんりを皮ーかごつて食へぬ」

* 「よろいながら」は、一般的には、(3)の用法で、品詞としては、副動詞、文の部分としては、修飾語、意味的には同時形とされる。が、ここでは、逆説的な意味としての(2)にあたる。
 「日本語の文法 p134」

身を固める
 (1) 結婚して家庭をもつ。また、定職につく。
 (2) やむを得ず身丈度をたぬ。
 「鎧兜よろいかぶとに身を固める」

なぎなた 【<長刀>/>薙刀</>肩</>突▽刀】

(1) 幅広く反りの強い刀身に、長い柄をつけた武器。平安時代から主に歩卒や僧兵が用い、南北朝時代以後は上級武士も使用したが、槍の発達で戦国時代以後は戦いの主要武器ではなくなった。江戸時代には婦人も用いた。

(2) 「薙刀草履よろい」の略。
 *写真等で示すのが正しい。

よせ・くる【寄せ来る】

T この文は、だれのこじ?

C 巴御前。

T 巴御前の説明だ。文の最後に書いてあるのは?

C 入です。

T 巴御前は、入です、という文だ。これじゃ、わからないね。

C そこで、どんな人か、説明が書いてある。

C まず、人をくわしくしているのは?

C 勇ましい人

C 女。

C ばったばったとなぎたおしたという人

T ちょっと、そこまでしておこう。まずは、そういう人なんだ。女の人なんだね。お父さんが今までかいてきたのは?

C 男

T 武者絵といえば、男だ。でも、生まれたのが女の子だから、

C 女の人をかいたんだ。けど、・・・?

C 勇ましい人をかいた。

T 巴御前が、どんな人だったか、くわしく見てみよう。

C 「なぎたおした」というのは、だれを?

C よせくる敵

T 敵だ。つまり、巴御前は何をしているの?

C 戦争。

C つるぬい

T そうなんだね。これは、戦争をやっているんだ。巴御前と

C いうのは、戦争でたかかった人だったみたいだね。

C じゃって、あたりのまえのことなのかな?

C 女は、つくせにほいかな?

T 時代劇なんかを見ていると、女の人がいくさをしたりはつ

C てないよね。

C でも、「あまみ」は女だよ。

C 水戸黄門にも出ている。

T まあ、物語の中ではね。でも、それでも、女の方は、忍者

C とかでしょ。巴御前は、本当にいた人だ。そのいくさの仕方

C も、ファミマのとは、ちがうよ。じつちがうかとつるぬい、

T 巴御前の格好が書いてあるでしょ。

C よろいかぶとに身を固め、

T よろいかぶとをつけているんだ。身を固めるというのは、

C ちゃんとした格好をするというこじ。何のための格好かとい

C じつ、

C いくわのため。

T 普通、よろいかぶとをつけるのは?

C 男だった。

T 書いてあったね。鎧兜の武者絵になっている人。

C 源義経、八幡太郎義家、武田信玄

T みんな、男だ。侍の時代だからね。いくさをするのは、男

C だった。これも、男らしさかな。

T ところが、巴御前は、「女ながらも」って、書いてあるよ。

C 「ながらも」って、わかる?

T 子どもながらも、なかなかしっかりしている。

C などと使われる。

(動力変)「文力変よせ・く

(1)押し寄せて来る。攻め寄せて来る。

「一・くくる波」「一・くくる敵をものこませず」

なぎたお・す ーたふす【▼薙ぎ倒す】

(動サ五「四」)

(1)横にはらうって倒す。「草を鎌でー・す」

(2)勢いよく次々に倒す。「並みいる強豪をー・す」

いせまし・い 【勇まじこ】

(形)「文シク いさま・こ

」動詞「勇む」の形容詞形」

(1)危険や困難を恐れず、積極的に事を行うさま。

「一・く突進する」

(2)周囲の非難を恐れず、大胆に行動するさま。皮肉やからかいの気持ちで使うことが多い。

「状況を一切顧慮しない一・い発言もいくつかあった」

(3)人の心を奮い立たせるようだ。勇壮だ。

「一・い行進曲」

(4)進んでぞうじょうという気になるさま。

「後世のつとめも一・しき世/一言芳談(上)」

C 子どもなのに、しっかりしているというところ

C 巴御前は、女なのに、いくさに参加した。

C 普通の女の人は、いくさなんてしないのに、巴御前は、いくさをやっている。

C 男みたい。

T そうなんだ。鎧兜でちゃんと準備をして、男の侍と一緒にいくさに参加しているんだ。

それも、ただ参加しているだけじゃなく？

C 強い。

C よせくる敵を、ばったばったとなぎたおした

T よせくる敵、というのは？「よせくる」ってわかる？

・よせくる波、というように使うんだけど。

C どんどんよせてくる

C 敵が、どんどんやってくる。

T その敵を、ばったばったとなぎたおした。これは？

C 次々にやっつけた

C 敵を、どんどんやっつけた。

C 敵が来てもきても、やっつけた。

T どういうふうにしてたかかったというところ？

C なぎなたをふるって

T 普通、侍は？

C 刀を使う

C やりも使っている。

T そうだね。でも、巴御前は、なぎなたです。なぎなたって知ってる？

C 見たことある

*これも写真などを用意した方がいい

T 長い棒の先に、刀のようなものがついている武器なんだ。

今でも、高校に、なぎなた部がある学校があって、女子がやっているみたいなんだよね。

そういうのをぶって、男の武士と一緒に、戦場で敵をばったばったとやっつける女性だったんだね。

ついでにというと、源義経と同じころの人で、だんなさまは、義経の敵だったらしい。

